

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.75



第3回人権フェスティバルで発表する前田さん（平成24年2月4日）

「思いやりの心」

熊毛小学校六年 前田 桃華

この作品は、人権のまちづくり国見部会の人権作文に応募された国東市立熊毛小学校六年（現在国東市立国見中学校一年生）の前田桃華さんの作品です。

私は、新聞の記事を読んで考えさせられたことがあります。それは、「車イス専用の駐車場」のことです。

その記事を書いた人は、車イス生活をしていて、自動車の運転もできる人でした。公共施設や商業施設などに車イスマークの駐車スペースが増えてきて、ありがたく思っているのだけでも、最近、身体が不自由でない人が、車イスマークや四つ葉マークを購入してこのスペースを利用して

いるということを目にしたという内容でした。

思い返してみると、私も車イスマークの駐車場から、身体が不自由とは思えない人が降りて来るのを見かけたことがあります。確かに車イスマークの駐車場は、お店の入り口に一番近く、スペースも広くなっているのだからだと思います。でも、自分さえよければそれでいいという気持ちで駐車してしまふと、本当に身体が不自由な人にとっては、大変な迷わくになっているということです。

身体が不自由でもないのに「車イスマーク」を買う人は、車イスを使っている人たちをバカにしていると思いました。

私も、時々、早く水が飲みたい時などに、自分が先にして、弟はいつも後になっているから気をつけなよと思いました。

それに、トイレのスリッパでも、急いでいる時に、反対向きにぬいでしまうことがあります。自分の都合で、次に使う人のことを考えていない証拠です。

相手や次の人はどうか？と、ちょっと考えるだけで、言葉や行動は変わってくると思います。

相手を思いやる心を持った人が増えると、みんなが暮らしやすい社会になると思います。

～隣保館まつり・同和問題学習会の開催について～

ご案内
 とき 8月25日（土）
 午前10時から
 場所 国東市隣保館
 内容 人権講演会
 「笑って健康、共助社会をつくる笑いの活用法」
 講師 NPO法人 博多笑い塾理事長・笑癒学研究者
 小ノ上 マン太朗さん

入場無料



※各教室生の発表、作品展示、こころの川柳、子ども広場
 飲食バザーなど、多くの催し物があります。

★問い合わせ 国東市隣保館 ☎0978-68-1722

皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください。

～第5回国東市隣保館まつり

「こころの川柳」応募作品～

人としてあはれいと思つ和の心

国東町 溝部 文夫

あいらびい心のあかりともぞつよ

安岐町 河野 未有